

令和3年度事業報告

自 令和3年4月 1日

至 令和4年3月31日

1 概況

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、前年度に引き続いて多くの事業に影響をもたらした1年となりました。年末には一度は収束したかに見えましたが、新たな変異株（オミクロン株）の感染急拡大により、三重県にも「まん延防止等重点措置」が適用されたほどです。

国内経済を見ますと、戦後最悪に落ち込んだ経済を回復させるため、令和3年6月に「経済財政運営と改革の基本方針2021」が閣議決定され、内外の変化をとらえ、構造改革を戦略的に進め、ポストコロナの持続的な成長基盤を作ることとされました。

また、東京オリンピック・パラリンピックの開催時期と重なった感染第5波による「緊急事態宣言」が解除された後は、経済活動への制約が徐々に薄らぎ、企業の設備投資の増加や世界経済の回復を背景に、景気の持ち直し基調が維持される見込みとされてきました。

そのような中、自動車の国内市場をみますと、令和3年（暦年）の新車販売台数は、世界中での新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた自動車部品の調達難や半導体不足を原因に自動車の減産が長く続いたことによる納車時期の遅れが大きく作用し、登録自動車及び軽自動車の総計で444万8340台（前年比3%減）と3年連続の前年割れとなりました。

また、県下自動車整備業界の経営基盤となる三重県の自動車保有台数の推移においては、令和3年12月末で150万5875台（前年比0.1%減）と横ばい状況にあります。

こうした状況にあって、当振興会は令和3年度事業計画に基づき各事業を遂行してまいりました。

まず、意見公表、調査研究事業としては、日整連の会議や調査の機会に整備業界の意見を具申いたしました。また、特定整備事業実態調査をはじめ整備需要等の動向調査等多くの調査を会員各位の協力を得て実施しました。

また、公表された調査結果につきましては、「図で見る整備白書」の配付や会報誌「整備みえ」、日整連情報誌「Jaspa News」に掲載することにより会員への周知を図りました。

必要な講演又は講習の実施事業としては、毎年定期的に行っている自動車整備士養成講習や自動車検査員養成講習等は、コロナ禍による定員削減を行うとともに、感染防止対策を徹底したうえにおいて計画どおり実施することができました。

また、令和2年4月からの特定整備制度に基づく認証申請に必要な電子制御装置整備主任者等資格取得講習や指定自動車整備事業者研修においても、コロナ感染拡大防止策を取りながらも、三重運輸支局と協調を図りながら計画どおり開催することができました。

例年三重運輸支局に協力して開催する整備主任者法令研修及び自動車検査員研修については、三重県に発令された緊急事態宣言期間中（9月末まで）は自主学習方式の研修に変更されたものの、宣言解除後は感染防止対策を図りながらも平常どおりに開催されました。

一方、高校生を対象とする自動車整備体験学習会は、感染拡大防止の観点から開催を中止いたしました。

自動車ユーザー対策事業としては、日整連が全国展開するマイカー点検キャンペーンに参画したものの、当初開催を予定しておりました「マイカー無料点検コーナー」、「マイカー点検教室」は、総合企画委員会でコロナ禍の状況を判断し審議した結果、地区自動車整備組合(協会)の了承のもと、昨年度に引き続き各地での開催を見送りました。

自動車整備技術の向上及び自動車整備事業の運営、改善に関する相談、指導事業としては、年2回の自動車整備技能登録試験を円滑に実施するための準備、進行に万全を尽くしました。特にコロナ禍の実施であることから、受験者間距離の確保や検温の実施など、感染拡大防止策を講じた実施となりました。

また、県内自動車整備事業場で就労する外国人技能実習生に対する外国人自動車整備技能実習評価試験を実施し、ベトナム人、フィリピン人、など80名の外国人が受験されました。

広報活動事業としては、テレビ、ラジオ等マスメディアによる広報や映画館でのシネアドによる広報を拡充し、定期点検整備の励行を広く呼びかけました。

また、情報誌「整備みえ」の掲載内容や当会ホームページの内容の充実を図り、会員及び一般ユーザーに役立つ情報提供に努めました。

行政協力事業としては、不正改造車排除運動、定期点検整備推進運動、交通安全運動などの行政施策に積極的に参加いたしました。しかしながら、運輸支局が実施する街頭

検査等は、コロナ禍により年度を通して実施を見送ることとなりました。

組織運営事業等共益事業としては、会員事業者やその従業員に対する多種の表彰に推薦をし、又は表彰してまいりました。

継続検査ワンストップサービス（OSS）業務については、令和5年1月の自動車検査証の電子化導入に向け、利用事業者登録の促進を図るとともに、各申請に対し迅速な対応を図りました。

若手経営者等で構成する「整備業界の未来を考える会」は、コロナ禍での情報交換の場として後期に4回の会議を開催し、また今後のOBD検査の実施に向けたプロテストにメンバー全員が参加し、意見・感想を関係機関に提出するなど活発な活動をしてまいりました。併せて、年度末には昨年度中止せざるを得なかった三重運輸支局等の行政機関との意見交換会の開催を実現することができました。

収益事業としては、登録番号標交付代行業務及び車両番号標頒布業務において、9月末をもってオリンピック・パラリンピックナンバープレートの交付・頒布を無事終了し、加えて四日市ナンバー・伊勢志摩ナンバーの図柄入りナンバープレートのPRを強調するなど、円滑な運営に努力いたしました。

また、令和4年度に導入される全国版図柄入りナンバープレートの交付及び頒布に向けた準備を進めてまいりました。

以上各事業計画により実施いたしました内容の詳細につきましては、以下の項目のとおりであります。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、当初の計画より下回る事業結果となりました。

コロナ禍においても業務がこれまで遂行できましたのも、これ偏に関係官庁のご指導並びに関係団体のご協力のほか、会員各位のご理解とご協力の賜物と衷心より感謝申し上げます。